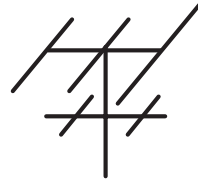


# 子育てチャンネル



## 変わる子どもの世界

東川小学校教頭

松本 敦

ATSUSHI MATSUMOTO

子供たちの生活の変化  
5年ぶりに住むことになった東川町。小学校のグラウンドからは、変わりなく元気な声が響いています。以前よりも野球のユニフォームを着ている子の数が増えています。ゴールに向かってシュート練習している子も大勢います。

東川町の少年団は、その種類と言い、所属している子供たちの数と言い、たいへん充実しています。数え上げると、

- ・野球
- ・サッカー
- ・バスケ
- ・ソフトボール
- ・バレーボール
- ・柔道
- ・空手
- ・剣道
- ・卓球
- ・水泳
- ・スキー

など盛りがあります。また、学校には、スクールバンドもあり、子供たちにとって魅力的なものばかりです。

本当に、私の子供時代（もう、40年前のことになりますが）には、考えられないことですし、人間関係も大きく変化しています。

少人数用のルールや工夫がありました。ソフトボールでしたら、一塁で戻ってくるルール、ちよっと人数が増えてくると三角ベース、そして、ふつうのルールで遊ぶ。また、小さい子の場合には三振無しというルールもありました。

いずれも誰が考え出したわけでもなかったのですが、当然、先生に指導されたわけでもなかったのですが、暗黙のうちにも、もう一人増えたら、あのルールでということが、遊びのグループ全体の意思として統一されていきました。そして、それを声に出して言うのは、いつも年上のお兄さんでした。

今考えてみると、この年上のお兄さんというのが、なかなかのスーパーマンです。ルールを決めるだけではなく、審判（進行）も兼ねるので、それだけでも、たいして揉めることもなく、いつもくたくたになるまで遊んでいたのですから、なかなかのリーダーです。

小さいうちは自分が遊んでもらい、大きくなったら小さい子の面倒をみながら一緒に遊ぶ。遊びの中から、縦・横が入り混じった子供社会が形成され、良いことも悪いことも含めて、子供同士の関係が遊びの中から作られていきました。

放課後の子供同士の遊びが

減っていると指摘されてから、かなり時間がたっています。子供たちの多忙さも同様です。どちらか一日の予定が、ずっと埋まっていることによるのではないのでしょうか。

子供たちを取り巻く環境  
グラウンドもそうですが、学校の遊具が並んでいるところ、飼育小屋、百年記念公園、忠別川など、飽きることなく遊ぶところがたくさんあります。特に、河原などは、親にしかたっても遊んで居たい場所ではないのでしょうか。でも、これらの場所では子供たちが長い時間遊んでいる姿はあまり見られなくなりました。

子供たちはどこで遊んでいるのでしょうか。アンケートなどによると、自宅あるいは友達のうちでゲームというのが多くなっています。もっと外で遊んでほしいと思いますが、最近心配なことが数多く出てきました。

その最たるものが、子供たちの安全が脅かされていることです。ついこの間まで、登下校に際して一番の心配は、交通事故でした。交通事故もあまり心配ないこと所では、道草して帰る子がいるということが問題でした。でも、最近では本当に命をどう守るかが大問題です。特

に問題なのは、自分だけが気を付けていれば良いということでは無くなったことです。また、都会だ田舎だという地域的なことでもなくなりました。

学校では、保護者や地域と連携して、様々な安全を守る取り組みをしています。たとえば、地域を巡るパトロールなどです。はつきりとした対象者がいない中での活動なので、手応えを感じるというものはありませんが、少しでも子供たちを守ることでできるならという気持ちです。

子供達への指導も変化しています。「知らない人に声をかけられたら、すぐに逃げましょう。」ということをや、徹底するようになっていきました。

「誰にでも明るく元気にあいさつをしましょう。」「困っている人がいたら、親切にあげましょう。」「とやっていたことが、ついこの前までありました。あ、あの時代が懐かしいなどと感傷に浸っている場合では無くなっています。

子供が育つ環境がどんどん変化しています。健やかな成長には、子育てに関わる人すべてが、いろいろなネットワークで結ばれ、子供自身が判断したり創造したりできる枠組みを作ってあげられればと思っています。